

愛知で働くすべての教員のみなさんへ

～あいち民研からの応援メッセージ～

現職教員のみなさん、いかがお過ごしですか？「働き方改革」が浸透し、仕事にやりがいをもって日々をお過ごしですか？ 様々な苦悩から仕事がつらく「休みたい」と思ったり、実際に休職されていらっしゃるりしていませんか？

私たち「あいち県民教育研究所」（略称「あいち民研」）は、まだまだ課題が多い愛知の学校現場を改善していくために活動しています。そして、現職教員のみなさんの現状を憂慮し、みなさんを応援したいと思います。

2024年4月1日

夢のある仕事的一方で

みなさんの多くは「子どもが大好き」「子どもたちを教え育てたい」という夢をもってこの仕事に就かれたことと思います。しかし、**実際はどうでしょう。**

初めて教員になられた方は、毎日の忙しさに驚かれたことでしょう。「子どもたちと楽しく学習したい」「子どもたちと楽しく過ごせるクラスをつくりたい」と意気込んで授業準備をしたり、楽しい活動を考えてやってみたりしたいと思っていたものの、学校内の仕事量の多さに振り回されていることでしょう。文部科学省は「働き方改革」の推進を謳い、タブレット（端末）の活用を進めています。しかし、それで本当に「働き方」が楽になったでしょうか。授業づくりにおいても、たくさんの学習内容があり、それでも工夫して楽しく学習できるようにしようと思っていたら、「タブレットを必ず使いましょう」「主体的対話的な学習を位置付けて下さい」「必ず教科書・指導書通りに教えなさい」など、授業の展開にまで様々な指示があって、工夫の余地が限られてしまっていることに困惑されていることでしょう。

またみなさんは、子どもたちと喜怒哀楽を共にし、成長していきたいと願っていらっしゃると思います。その子どもたちが学習に励んでくれたり、「〇〇先生でよかった」と言ってくれるほど馴染んでくれたりしたなら、どんなにかうれしく、やりがいを感じることでしょう。しかし、社会のひずみ（貧困、DV、孤立等）の中で苦しい家庭生活を強いられている子どもたちは、毎日暗い表情を見せていることでしょう。また、自分は楽しい授業を試みようとして努力しているつもりでも、どんどん進めなくてはやりきれない学習量の中で、「分からない」「ついていけない」と暗い顔になってしまっている子どもたち、学習を放棄して騒いだり無秩序になってしまったりして指導が伝わらない子どもたち、さらには子ども同士の関係に苦慮して「いじめられ」「不登校」になってしまっている子どもたち、そのような子どもたちを目の前にして愕然としたり、自分の至らなさを感じてしまったりすることもあったかもしれません。

さらに、子どもたちの「楽しい」という反応を聞いて応援してくれる保護者もいる一方で、指導の仕方や子ども同士のトラブルを巡っての対応等で理解が得られず、きつい口調で抗

議したり、執拗に改善を求めたりする保護者がいて、その対応に神経を尖らせたこともあったかもしれません。

職員室はどうでしょう。みんなで和気あいあい語り合い支え合えたり、授業や学級づくりの悩みや愚痴が語れたりする職場なら、どんなにか気が楽でしょう。しかし、みんなが忙しく汲々としていて、上司の指導が厳しい職場も少なくない現状があるとされています。現代の学校では、その上司である管理職もまた「人事評価」の対象であるために、リスク管理が優先され、失敗や過ちがないように強い「リーダーシップ」が求められています。そうして、その管理職も含めて教員全体に自主的ではない形で「新たな教師の学び」が強制されているのです。

「よりよい教育」を求めるから悩む

長く教職を続けていると、「大変」「つらい」ことの方で、「楽しかった思い出」がたかさんできるものです。だから長く教職を続けられるのです。しかし、今、この瞬間に、深刻に悩んでいる教員もいらっしゃるでしょう。その深刻な悩みによっては、時として休職や退職を考えようという気持ちに傾いてしまうこともあるでしょう。

そのような時にこそぜひ振り返ってみてください。**みなさんは、子どもたちや職務に対して手抜きをしてきたでしょうか。**それこそ必死でこれまで「子どもたちが楽しさを感じられるように」「夢をもって過ごせるように」「もっと授業をよくしていこう」「学級をよくしていこう」と頑張ってきたのではないのでしょうか。教職に就くみなさんはとても誠実な人たちが多くと言われています。そして、子どもたちに対してとても献身的に尽くす人たちであるとも言われています。それゆえに、今が苦しく、つらく感じてしまうのです。

しかし、よくよく考えてみてください。「自分がこんなに頑張ってきたのに」と思っている、実際には空回りを感じてしまうのは何故でしょう。その原因は自分自身の「至らなさ」からと思わされていないでしょうか。私たちあいち民研は、教員の**みなさんが悩み苦しむ要因には、別の大きな教育課題がある**と見ています。それは教員をとりまく教育環境の問題です。

みなさんが苦しむ要因の1つ目には、教える内容の多さ、そして教え方のある種のパターン化を強いられていることにあるのではないのでしょうか。2つ目には、全国一斉学力テストを始めとする学力調査で「よい結果」を求められることにあるのではないのでしょうか。3つ目に、子どもたちに関わりたくても関われない、職場の人に質問して教えてもらいたくてもみんなが忙しそうに聞くに聞けないなど、学級事務や校務、研修や会議等による授業づくり・学級づくり以外の業務の多忙にあるからではないのでしょうか。

また、学習に関心が向かない、集団生活になじめないなど個別支援が必要なケースの子もいることでしょう。また、様々な家庭状況を配慮する必要があるなど、保護者への個別的対

応が必要なケースもあることでしょう。こうした対応ではベテラン教員でさえも苦悩するものです。こうした苦悩に対して、それを軽減できるほどの教員数や、スクールカウンセラー等の専門スタッフの配置等の人的体制が保障されているのでしょうか。

そして、何よりも1学級の子どもたちの多さにも要因があるのではないのでしょうか。欧米の学校では1学級20人規模が当たり前です。しかし、日本ではやっと小学校で35人化が進んだものの、中学・高校での1学級あたりの標準定数は相変わらず40人のままです。しかも、35人化が進んだといっても、園から入学したばかりの小学1年生を指導したり、個別に支援が必要な子が増えてきたりしている中では、まだまだ多すぎます。体格のよい子が多い高学年の教室では、教室内を行き来するにも苦勞している現状があるのではないのでしょうか。さらに愛知県では、特別支援学校の規模が過大で、そのことで様々な問題が起きています。

さらに、今、全国で「教員不足」が大きな問題となっています。愛知県の小中学校の教員の約10%は非正規教員で占められています。しかもその多くは経験豊富な教員です。教員定数を大幅に改善することで非正規教員を正式採用すれば、教育条件は大幅に改善され、子どもたちへの教育にもゆとりが出ます。

みなさんが悩むのは、みなさんが子どもたちや教育に対して真剣だからです。みなさんが「力量がない」からでもないし、「弱い」からでもないのです。1人の力では解決ができないほどの大きな教育課題、文部行政の問題があるからなのです。

教員のみなさんを支える拠り所

子どもたちや教育に対して真剣なみなさんが、1人で悩み、抱え込んでしまうことを、私たちはとても心配しています。

みなさんのその悩みが職場の中で語られて支え合えればよいですね。しかし、なかなか現代の多忙な学校現場ではその余裕がなくなってきました。しかし、そうした実態の中でも、同じ悩みを抱えながらも、一方で生き生きと職務に当たっている教員もいます。ではどうやって乗り越えてきているのでしょうか。

そうした教員によく見られるのが、意識的に学校外のつながりを大事にし、そこで支えられてきている姿なのです。

例えば、文化（音楽・絵画・映画鑑賞等）や自然（登山・釣り等）、スポーツなどで心をリラックスさせ、自分の内面を豊かにする関わりの場を大事にしてきていることです。

また、利害関係のない自主的教育研究サークルで学んでいることです。学校内でも研修の機会があるでしょう。しかし、学校外の、特に民間の自主的教育研究サークルでは、「楽しく学び合い交流し合う」ことを大切にしています。「楽しい」のはなぜかと言えば、経験年数等での上下関係がないから本音で話せること、子どもに寄り添うことを大切に形式にこ

だわらない教育活動を展開していること、そうした中で「目から鱗」の様々な実践に出合えること、さらにはお子さん連れでも参加できる気軽さがあるからなのです。

みなさん、学校内の悩みを、こうした外部の力も借りて解決に向けて取り組んでみませんか。研究団体に限らず様々な相談機関もあります。学校内の悩みを保護者や市民にも発信してみませんか。そのことが、改めて新鮮に教育活動に向かう力になるかも知れません。また、長時間労働やハラスメントなどの職場の勤務条件で問題がおきたときは黙っていないで、信頼できる機関や組織に相談しましょう。ここにみなさんを応援・支援してくれる教育研究団体の一覧を添付します。ぜひアクセスしてみてください。

また、みなさんには労働者として「休む権利」も保障されています。辛い時には思い切って、給料に影響されない有給休暇をとることも大切です。その他、「リフレッシュ休暇(3日)」や育児・介護等に関わる休暇もあります。自身の心身の健康があってこそ、子どもたちにも元気に向かい合うことができます。

あいち民研は、子どもたちや教育に真剣に向き合うみなさんを心から応援するとともに、教員のみなさんの声を受け止めて、外部から働きかけて学校をよりよい環境にしていけるように支援もしています。あいち民研の学習会にもぜひ足を運んでみて下さい。可能な限りの助言・支援をしていきます。

○あいち県民教育研究所(あいち民研)

会員制の教育研究所。5つの部会をもって研究者と教職員・市民とでよりよい教育のあり方を分析・研究するとともに、学習会を開催したり、年6回通信「あいち民研」、年1回研究誌「あいち民研年報」を発行しています。

office@aichi-minken.sakura.ne.jp



○愛知県民間教育研究団体連絡協議会

愛知県内にある教育研究サークルが結集して、互いの実践を発表して交流し協力し合っ
て、よりよい教育活動に取り組んでいます。年4回「愛知民教連ニュース」発行をし、春夏冬
に研究集会を開催しています。平野博通 090-8732-2029

○情報コーナー (別紙参照)

1. 愛知の主な自主的教育研究サークル及び研究所一覧
2. 労働条件・ハラスメントなどの相談先
3. 教員の勤務・サービス・休暇制度など